参考資料２

■建物・動線

・敷地を建物で分断することなく、敷地内外での回遊性を高めるため、敷地西側の通路、敷地中央の内部通路、敷地東側の道路の歩道側の３箇所で南北を通行可能としています。

■駐車場・駐輪場

・駐車場は、駅前の限られた敷地を有効的に活用するため、地下に配置します。また、駐車場の出入口は歩行者の安全性を考慮し、自動車交通量の少ない市道小牧駅西線側に配置します。

・駐輪場は、利用者の利便性を考慮し、敷地南東側と西側に設置します。

■消防活動用空地

・災害時において、はしご車による救助等の消防活動が円滑に遂行できるよう敷地南側と東側の２箇所にバランスよく計画します。

■緑化

・緑豊かで季節感のある駅前景観の形成に寄与するため、地上部や建物屋上部などを緑化する計画とします。なお、緑化は、地域の特性や気候などの環境性やメンテナンス性を考慮した計画とします。

■市道歩専1号線との連携

・市道歩専１号線との一体的な利用を想定し、敷地北東側に広場空間を確保する計画とします。

■明快なゾーン構成

・機能的に構成された明快なゾーニング計画とし、「静」の空間である「一般開架エリア」、「動」の空間である「フレキシブルイベントエリア」、静と動を繋ぐ空間である「吹き抜けエリア」の３つのゾーンで構成します。

■一般開架エリア

・コンパクトで柔軟性のある配架計画や動線計画が可能なエリアとします。

■吹抜けエリア

・様々な情報資源の企画・展示など、出会いや学びの場とし、小牧らしさを醸成するエリアとします。

■フレキシブルイベントエリア

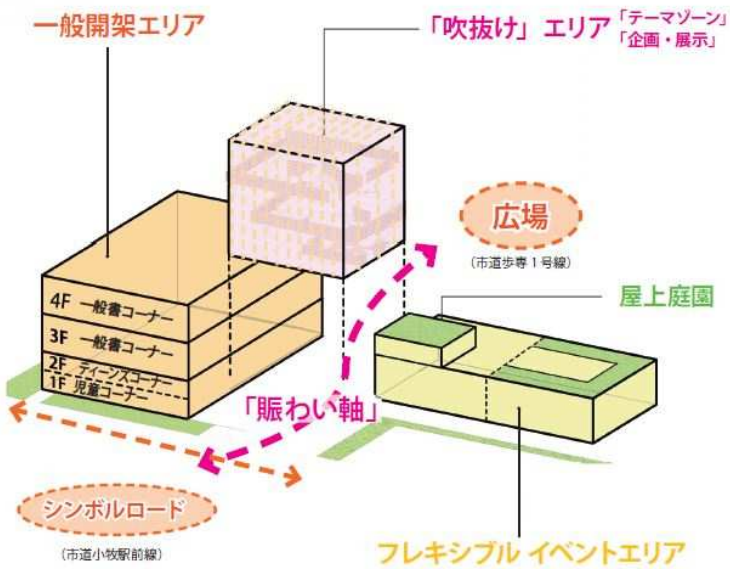
・将来にわたって市民の多様なニーズに対応できる自由度の高いエリアとします。

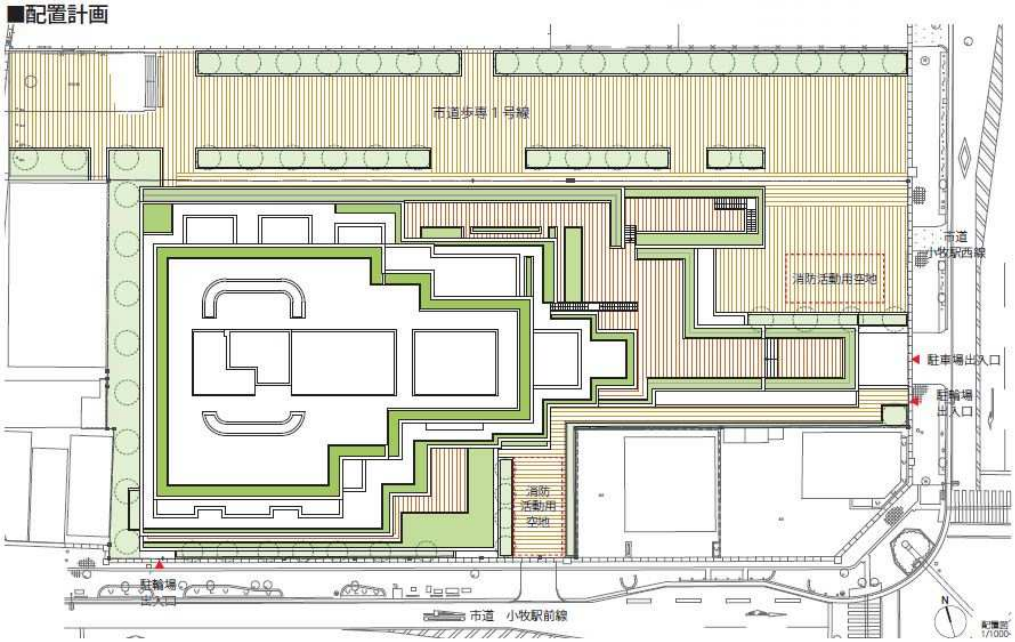
■賑わい軸

・シンボルロード（市道小牧駅前線）と広場（市道歩専１号線）を結ぶことで、人が行き交う回遊性をもった動線とします。

イメージパース

■ゾーニング計画　「機能的に構成された明快な３つのゾーン」




■配置計画